

<h1>大和公民館だより</h1>

発行者 大和公民館
〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1
館長(有賀)■■■■■■■■■■ 主事(三枝)■■■■■■■■■■

◇ 今月の公民館事業は

新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっており、感染防止策として8月は公民館も一時休館の措置を取らせていただきました。県は「まん延防止等重点措置」の地域となりました。つきましては今月から開始を予定していた「童謡教室」は、延期いたします。

☆☆

笹子峠の西の麓の民話・伝説

「自害沢」(じがいざわ)

今から800年程前、甲斐源氏「安田義定」と云う武将がいた。(新羅三郎義光の曾孫にあたる)長承3年3月10日に北巨摩郡(現在は北杜市)須玉町若神子に生まれたと伝えられている。荘園を足掛かりに甲斐源氏が勃興、義定も安田姓を継ぎ峡東一帯を支配していた。

治承4年4月、後白河法皇の皇子似仁王と源頼政が謀り平家追討の兵を挙げた。頼朝の叔父新宮十郎行家が、山伏姿で密かに平家追討を促す令旨を諸国へ伝え回った。義定も頼朝とは別に独自に挙兵し、波子大山で景久の軍を破った。

寿承2年8月10日、源氏に対して初めて勤賞の徐目があり、義定は遠江守に任ぜられ従五位に叙せられた。

しかし、義定は同年10月宣旨で当時は都にいたが大打撃を受けた。頼朝が権力を拡大し木曾義仲が滅亡。義定も一時は大勢力を持ったが奥州征伐の翌年のこと、六条殿造営や京都伏見稲荷祇園両社の修理など諸役を勤仕せず法皇のご機嫌を損ねたなどの理由で遠江守から下総守に左遷された。

建久4年には弟の範頼、長男の義賢が殺され、義定の所領はすべて没収された。義定は無念に思いつつ親しい者と今後のことを相談していたが、謀叛を計画したと梶原景秀が讒訴したことによって、頼朝は梶原景秀と加藤景簾を討手として甲州に発向させた。

義定は、松里の放光寺を頼り鎌倉街道を御坂峠に向かったが、追手の手が廻っていたので道を変え、笹子峠を越えたがここにも追手が廻っていることを知り、無念にももはやこれまでと山中で自害した。

骸は麓の百姓の協力を得て夜陰に乗り秘かに放光寺に送り届け葬ったと云うことである。

このことから、今でも自害沢(「じがいざわ」土地の人はジゲイ沢ともいう)として名をとどめている。

(注)今回は史実に基づく話になりました。安田義定の最期については諸説があり、放光寺(甲州市塩山)において自害したという説もあります